

第2章 農業・農村の将来像と基本的な方向

1 農業・農村の将来像

○ 西和賀町の原風景の回復と伝承

黄金色の稲穂が風にたなびいている出来秋。実りの秋を喜ぶ人々の声が地域にあふれている。これが日本の田舎である西和賀町の原風景です。人口の減少や高齢化により、農業後継者や農業労働力が不足し、農地の管理を今後どのようにするか懸念される中で、あらゆる対策を講じて、このような原風景を取り戻し、次の世代に伝えていくことが求められております。町民の地域に対する愛着や誇りを原動力として、更に取り組みを重ね、地域活力や地域力そのものを高め、西和賀町が将来にわたって持続していくことを目指します。

2 農業・農村振興の基本的な方向

○ 農業集落の維持

農業情勢がどう変わろうとも、稲作を中心とした農業集落を維持していく必要があります。個々の農家の取り組みを支えつつも、個々で担えなくなった部分を集落や農業組織が担う体制の構築を引き続き行っていく必要があります。

また、日本型直接支払制度を活用しながら農村景観の維持活動に引き続き取り組むとともに、林業分野と連携しながら里山景観の保全に努めていくことも必要です。

○ 人材の育成と活用

新規就農者や農業後継者など今後西和賀町の農業を担う人材の育成とあわせ、意欲をもって就農できる環境の整備を進める必要があります。また、西和賀町には色々な技能を持った人材がおりますが、高齢化が進む中で、技能の継承は早急に取り組まなければいけない課題となっております。

○ 農業を次世代につなぐことのできる強い経営体の育成

認定農業者、集落営農組織や法人経営体などが中心となって産業としての農業を西和賀町に残していく取り組みが進められてきました。農業後継者の減少や農業労働力の不足により、農地管理の受け皿としてその存在はますます重要になるものと考えられます。認定農業者、集落営農組織や法人経営体などがこのような役割を引き続き担っていくためには、経営の体力を強化する必要があります。

○ 基幹作物の振興と地域資源の活用

西和賀町は厳しい自然環境にありながら、基幹作物である水稲や花きに加え、畜産を組み合わせた複合経営が振興されてまいりました。それらの振興に加え、立地特性を生かしたわらびをはじめとする山菜、転作作物として生産面積が拡大しているそば、大豆など地域資源を活用した作物の6次産業化を推進することが農業経営を安定させるうえで重要です。